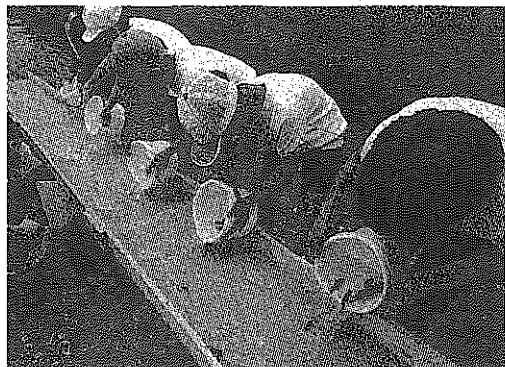


マダイ種苗を体験放流

小網代パール海育隊

三浦市の小学生129人参加

【三崎】神奈川県三浦市の小網代パール海育隊(出口浩代表理事)は13



「大きくなつて」と声を掛け放流する児童たち

湾はかつてアマモが群生する干潟で魚の

幼稚仔の成長の場であったが、アマモが

アイゴに食べられ「海の砂

漠化」が進んでいるなど海の環境の悪化を説明。

そのうえで、同協会が稚魚を生き残りが高くなる大きさまで育てて放

流しており、「きよう放流してもらうマダイ種苗は1年で15坪、3年で25

坪以上に育ち、漁業者や遊漁者が釣り、食べられるようになる。大きく育

って帰ってきて、と声を掛けて放流していただき」と話した。

このあと、同協会の職員らから小さなバケツに数匹の稚魚を入れてもらった児童たちは、「大きくなつて」と声を掛けながら放流台を使い、繰り返し放流した。

同海育隊は、小網代湾が日本の真珠養殖の発祥地であることを周知しようと2015年5月に設立。小学生に真珠養殖の体験教室を行うなどの活動に加え、稚魚放流を通じて海の環境保護と資源の大切さを知ってもらおうと、毎年、種苗放流体験会を実施している。

日、同市の小網代湾で市内5校の小学生129人が参加する「マダイ種苗放流体験会」を行った。児童たちは合計2000尾のマダイ種苗を放流した。

放流したのは、神奈川県栽培漁業協会が飼育していたマダイ稚魚(体長約7センチ)で、午前と午後約2回行った。

放流に先立ち同協会の今井利為専務は、小網代